



手城小だより

福山市立手城小学校
2024年(令和6年)
7月5日(金)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

ヴァイオリンの魅力に迫る 音楽宅配便—6年生—



6月14日(金)、6年生が中根由貴さん(ヴァイオリン)と野瀬百合子さん(ピアノ)をお招きして演奏会を行いました。

ヴァイオリンの特徴・音色・奏法について学びながら、それが良く表現されている曲、アンダーソンの「踊る子猫」やエルガーの「愛のあいさつ」などを聴きました。目の前で見る様々な奏法に子供たちは興味津々でした。



また、数人が実際にヴァイオリンの演奏体験をし「きらきら星」を一音ずつ分担して演奏しました。中根さんの演奏に子供たちは目を輝かせて聴き入り、ヴァイオリンの音色の魅力をたっぷり感じていました。

子供たちは「いろいろな弾き方がある」「やってみたくなくなった」「近くまで来て演奏してくれたから嬉しかった」と感想をもちました。

福山の歴史を知る —6年生—



6年生の社会では1・2学期に歴史を学んでいきます。そこで、福山市の歴史を学ぶために広島県立歴史博物館と福山城博物館へ見学に行きました。

広島県立歴史博物館では、縄文時代から時代を追ってその当時の暮らしの様子や出土品を見学していききました。ジオラマ体験コーナーでは一つ一つを丁寧にみて学芸員さんに質問してました。福山城博物館では、子供たちは菅茶山や水野勝成に興味を持ち、福山城や福山藩の歴史を学び、クイズコーナーや一番やり体験などをしていました。これから学んでいく社会の学習や9月の修学旅行に向けて歴史の興味が膨らんだ社会見学となりました。

人に学ぶ、福祉を学ぶ —5年生—

5年生は総合的な学習で1年を通して福祉について学んでいます。6月17日（月）には福山市社会福祉協議会の方やボランティアサークル「麦の会」の皆様をお招きして点字について学びました。また、6月27日（木）、車いすユーザーの藤井佳奈様をお招きしてお話いただきました。7月3日（水）福祉を高める会の皆様にご指導いただきながら車いす・アイマスク体験をしました。

点字にチャレンジ！



5年生が点字にチャレンジしました。麦の会の方々のご指導くださり、点字は母音で構成されていることを知り、一人一人が、点字の五十音表をもとに「手城小学校」と打ち込みました。定規の間に紙を挟み込み、1マスに6つの点で点字一文字分に点筆で点字を打ち込んでいきました。あっという間に時間がすぎ、子供たちは「他にもいろいろな文字を打ってみたい。」と感想を持ちました。

車いす利用者、介助者の視点から考える



2014年10月、交通事故により頸髄損傷手足不全麻痺となり車いす生活を余儀なく医者に告げられた福山市在住の藤井佳奈さん。当時寝たきりでしたが、リハビリを積み重ね現在に至るまでの事故当時の経験や車いす生活、心のバリアフリーについてお話いただきました。

「できないことを数えるより、できることを数えていこう。困っている人を見かけたら『何かお手伝いすることはありますか』と声をかけて。当たり前は当たり前じゃない、隣に友達がいることに感謝して」と語られました。

2人1組となり、車いす体験とアイマスク体験をしました。坂道や階段など、介助するには難しい場面もありましたが、教えていただいたことを意識して介助をしていました。

アイマスク体験の時は、介助をする人はななめ前に立ち、声をかけながら一緒に進みました。

どちらの体験でも、安心・安全に生活するためには、相手の立場に立って考えること、優しさが必要だということを実感していました。

